

中国東部沿海地域都市部における 空の巣老人の生活

XU Siyuan

目的

中国では、80 年代の改革開放以来、家族の規模が小さくなり、空の巣家庭が増える一方である。民政部は 2013 年の統計により、2030 年までに中国高齢人口は 3 億に近づき、空の巣老人家庭の比率は 90%になると予測している。中国における高齢者人口の地域分布は東から西に進んでいくという特徴がある。中国の東部沿海、特に経済が発達している都市部（上海、浙江省、江苏省など）の空の巣化が早く進んで行く状況にある。

都市部における独居老人や、高齢者夫婦のみによる空の巣老人が増えており、このため養老過程において日常生活と精神面の充足の欠如が大きくなってきている。中日で「空の巣老人」が社会問題として指摘され始めたが、「空の巣家庭」はどのような要因で生まれたのか、またどのような生活問題と援助課題があるのか、以上についての研究はまだあまりない。

本研究では、高齢人口の分布が高く、「工業化・都市化」が進み、空の巣家庭が増加している中国の沿海部である浙江省の紹興市都市部をターゲットとして、空の巣老人の老後生活実態にかかわるアンケート調査を実施し、これを踏まえて日常生活面と精神面の両面から現状を明らかにしたい。

第 1 章

まず、「空の巣」老人の定義を歴史的観点と、これまで行われてきたその定義に対する研究者たちの考え方をまとめ、捉えていく。

「空の巣老人」の定義を具体的に整理すると、①子供がいない親の世帯と独身高齢者②子供と別居する高齢者—いわゆる近くに住んでいても子供が世話をしてくれない高齢者③子供が別の地域で就学や就職しているため、仕方なく家に残った高齢者。以上の三つのタイプに分けるこ

とができる。

空の巣家庭の形成要因については、個人的な要因、家庭的要因、そして社会的要因と、三つの要因がある。現在中国における空の巣老人は、①日常生活のケア②社会保障③精神的ケアという、三つ問題に直面している。その三つの面において、それぞれの問題点を整理する。現在、中国の空の巣老人の精神的なニーズが社会において最も注目されているが、空の巣老人の精神扶養は生活の扶養と同じように、子供の力だけでは見だしきれない現状となっている。

それを補うため、現在上・北京をはじめ、東部沿海地域の都市部において、従来のボランティア活動に加え、空の巣老人向けの友愛活動・見守り活動なども展開されるようになってきた。

第 2 章

調査地とする浙江省紹興市越城区における、「1+N+X」というパターンによる空の巣老人に対するボランティア活動は 2013 年から始った。「“1+N+X”空の巣老人関愛志願服務活動」のサービス対象—100 人の空の巣老人—は、生活上何らかのニーズがあるのでサービスが必要ということが既にわかった上で、大学生ボランティアの協力を求め、対象者の生活実態を明らかにするために一次調査と二次調査を行った。本章では、調査設計を作り、調査地の状況を具体的に紹介する。

第 3 章

一次調査は予備調査として、筆者は二つの大学(紹興職業技術学院と紹興文理学院)の「1+N+X」という活動に参加している 14 人ボランティア大学生に対して、対応している空の巣老人 12 人(10 世帯)のこについてインタビュー調査を行った。

さらに、二次調査に作成する設問と選択肢、明らかにしたい特徴を事例分析によってまとめる。

第 4 章

本調査(二次調査)は、更に「1+N+X」に参加している紹興職業技術学院のボランティア大学生の協力の元、対応している 62 人の空の巣老人に質問紙を用いた面接調査を行った。

本章では、紹興市越城区「“1+N+X”空の巣老人関愛志願服務活動」のサービス対象とする 62 人の空の巣老人の調査を参考にしながら、紹興市の都市部における空の巣老人の生活実態の一端を明らかにし、その特徴について検討した。その結果①未婚、子供がいない、家族全体の経済力の欠如など、家族の援助が期待できない空の巣老人の生活の性格、②日常生活の側面に隠れている空の巣老人の精神的なニーズ、孤独感の拡大により閉じこもり状態になる

可能性、③家族・親族、周りの人と接触がなく、サービスから漏れている空の巣老人、などの特徴が見出された。

最後に、ボランティアは一部の空の巣老人の生活に隠されている特徴や精神面の孤独感を見出し、できる範囲で援助が可能なことから、この活動において、大学生ボランティアの役割が明らかになった。一方、お互いの積極的な交流と高い評価は、「親情陪護」という活動の主旨と一致し、このボランティア活動の意義でもある。

結論

これから中国では、「空の巣老人」それぞれの特徴、生活のニーズなどにあわせて問題を解決することが、空の巣老人に対する社会保障を補完する。それとともに、社区の在宅養老サービスを促進することがどのように期待されているのか、また、中国の沿海地域都市部における「空の巣老人」の孤立を防ぐために、日本に何を学ぶ必要があるのか。以上が今後の課題であることも考えられる。